

平成 23 年度自己点検評価結果

学 長

I 教育活動

・優れた点

- ① 学部教育系の教員就職率が7割を超え、B類も目標である6割に達した。
- ② 修士課程の教員就職率が5割を超え、昨年の約4割から大幅に上昇した。
- ③ 学芸カフェテリアで多彩なキャリア支援行事が実施され、多くの学生が参加した。

・検討を要する点

- ① 学部で志願倍率が2倍未満の選抜単位があった。
- ② 学部教育系で教員就職率が6割に達しない選修・専攻があった。
- ③ 修士課程で入学者数が定員に満たない専攻、および、定員を大きく超える専攻があった。
- ④ 修士課程で教員就職率が5割に達しない専攻があった。
- ⑤ 特別専攻科で志願者が減少し、入学者が定員に達しなかった。
- ⑥ 大学院連合学校教育学研究科で志願者が大幅に減少した講座があった。
- ⑦ 多摩地区大学院単位互換制度で派遣、受入とも0であった。

II 研究活動

・優れた点

- ① 文部科学省特別経費事業で新規事業3件を含め計7件が実施された。
- ② 科学研究費補助金の新規採択件数が59件で昨年の35件から大幅に増加した。
- ③ 研究活動における受賞が14件あり、昨年の7件から大幅に増加した。
- ④ 附属学校研究会で17の部会、4つの地区ごとに多彩な活動が行われた。

・検討を要する点

特になし。

III 社会貢献活動

・優れた点

- ① 文部科学省との連携のもと「熟議2011」を開催し、地域の教育関係者や市民と議論を深めた。
- ② 免許状更新講習において、延べ人数で昨年の約2倍の約6000名の受講者を受け入れた。

・検討を要する点

特になし。

IV 国際交流活動

・優れた点

- ① 大学間交流協定校への派遣学生数が48名で昨年の34名から大幅に増加した。

・検討を要する点

- ① 外国人留学生数が358名で昨年の419名と比べて減少した。
- ② 教員の海外派遣数がやや増加したが教員総数に対する比率は依然として低い。

V 大学運営

・優れた点

- ① 大学の個性化を図り教員養成機能を強化するための組織再編の取組、ホームページの全面的リニューアルとメールマガジンの発行などによる広報活動の強化、震災を受けて学習ボランティアの派遣などの被災者支援活動の実施、震災を契機とした本学の危機管理体制の見直しなどの点で成果があった。

・検討を要する点

- ① センターの現状と課題について監事から詳細な報告がなされており、これらをふまえて改革を進める必要がある。